

第 636 回：いかに資料を調査していくか（DM）

皆様こんにちは。LA 毎週月曜 14:00~17:00 担当、博士課程（後期）の DM です。今回は資料調査の方法を説明していきます。

「資料調査」とは、自分の設定した問題に関連する資料を収集していく作業のことです。この言葉は『論文作法』という本の章題から引用したのですが、別の言い方をされることも多いです。要は、論文を完成させるために必要な資料を集める作業のことを指します。

この作業が必要なのは、論証作業を行う際に、資料に書かれているデータが必要になってくるからです。なぜなら、どの分野の研究であっても、自分の設定した問題の重要性や、自分の採用した方法の必然性を論証するために、先行研究などの資料の中から、論拠となるデータを見つけることになるからです。また、説得力のある論証を行うためには、やはり一定の量のデータが求められます。論証に必要なデータが三つだとしても、その三つを選ぶために、その二、三倍のデータを集めることになります。つまり、論拠を引用するための複数の資料を集めるためには、資料調査はどうしても必要、というわけです。……

——でも、どんな資料から集めたらいいのさ？ どんな資料がどれくらいあるかってのは、専門家ならまだしも、初学者に分かる筈もないじゃん。

——同感。つまりは、「何から集めるべきか」じゃなくて、「どんな資料なら今の自分にでも見つけていけるか」ってところから始める他ないんじゃないかな？

……と、ここでオススメしたいのは、今の自分にとって身近な大学図書館、外大生であれば外大図書館から資料調査を始めていく、という方法です。

とりわけ、調査対象に対して初学者の段階にある学生（私です！）にとっては、この方法は非常に有効です。なぜなら、基礎的なデータを物理的に閲覧可能な資料から探し始めることができるからです。そもそも初学者の私には、自分の調査対象に関して、どんな資料がどこにあるのかさえ分からない。もしかすると、重要な文献が外国でしか読めないかもしれない。とはいえ、新書や入門書の類であれば、外大図書館でも読むことができます。どんな分野だろうと、初歩的なデータを獲得するだけなら、その手の文献を読むので十分です。ならば、そこから始めるべきでしょう。

初学者であるとは、単に初歩的な知識を知らない状態であるということに過ぎません。ですから、最初の段階では、「手近な資料から基礎的なデータを集めること」を意識するのがオススメです。調査対象に関して一定の基礎知識を身につけたとき、そこで初めて、より専門的な資料調査へと進んでいけばいいのです。

ちなみに、資料調査については、近年のものであれば、たとえば、戸田山(2022:56-89)や小熊(2022:143-156)の説明が、短くて分かりやすいです。また、ウンベルト・エーコの『論文作法』では、初学者であっても地方図書館にて三日間の午後を費やしただけで論文のアイデアを得ることのできる方法がシミュレーションされています(1991:102-

第 636 回：いかに資料を調査していくか（DM）

127)。資料調査の RTA ですね。ご参照ください。

以上が今回の LA 通信です。次回は、今回お伝えした内容を私が自ら実践して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

参考文献

ウンベルト・エコ（谷口勇[訳]）『論文作法：調査・研究・執筆の技術と手順』而立書房、1991 年：N801.6==28、書庫 1F（開架）

小熊英二『基礎からわかる論文の書き方』（講談社現代新書；2660）講談社、2022 年：K2660、閲覧室入口正面

戸田山和久『論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス, 1272; 最新版）、2022 年：N816.5==140、閲覧室入口正面